

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年7月29日～8月4日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年8月6日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼EUMMが行政境界線上の障害物の建設について懸念を表明(2日)

・EU モニタリング・ミッション (EUMM) は、アブハジアおよび南オセチアの行政境界線上につくられつつある盛り土やフェンスなどが、地域住民の移動の自由と生活に深刻な影響を及ぼすとして懸念を表明。

【アブハジア】

▼アंकワブ「大統領」がナリチクに総領事館を開設するよう「外務省」に指示(31日)

・チリクバ「外務大臣」との会談で、北コーカサス地域の総領事館をカバルド・バルカル共和国ナリチクに開設するよう指示。

▼アブハジア「商工会議所」の代表団がセルビアを訪問(31日)

・セルビア商工会議所にてセルビアの企業家と互恵的な協力関係の構築について協議。ロシア通商代表部を訪問。

▼露内務省局長らがアブハジアを訪問(1日)

・アंकワブ「大統領」とシマコフ露内務省南部連邦管区担当局長が、アブハジアとロシアの法執行機関の協力について会談。アブハジア「内務省」ではソチ五輪における安全確保について情報を交換。

【南オセチア】

▼ロシア人旅行者のグループが「国境法」を犯したとして拘束される(29日)

・拘束された5名のうち、案内していた1名を除く4名は罰金を支払ってロシアへ送還された。

▼ロシアが南オセチアへの投資計画を倍増(29日)

・南オセチアの「経済発展大臣」によれば、2014年～2016年の投資プログラムはもともと総額9億3000万ルーブルであったが、7月19日にモスクワで行なわれた政府間委員会の協議で20億700万ルーブルに増額された。

▼第36回IPRM会合(30日)

・行政境界線付近での農作業の安全の確保、水源や墓地などへのアクセス、拘束者・行方不明者の問題などが議論された。
・南オセチア側はフェンスの建設についての議論を拒否。
・次回会合は9月16日の予定。

2. 外 政

▼サーカシヴィリ大統領がシンガポールを訪問(29日)

・シンガポールのタン大統領、シェンロン首相、フンキ

ヤン通商産業大臣、ポータン国家開発大臣、キムヨン保健大臣と会談。シンガポール外務省によれば、「友好的な両国関係を確認し、貿易・投資などにおける協力の発展について意見を交換」。

・大統領にはカダギゼ・グルジア国立銀行総裁および「統一国民運動」(UNM) 所属の議員らも同行。

▼カチンスキ・ポーランド元首相・野党「法と正義」党首がグルジアを訪問(30日～31日)

・サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相と会談。「サ」大統領は聖ギオルギ勝利勲章を授章。

・TV「ルスタヴィ 2」のインタビューで、南オセチアでのフェンスの建設についてロシアを非難し、「ロシアとの間の問題は国際的規範の枠組みで解決されねばならない」と述べた。グルジアのEU および NATO への加盟の重要性を強調。

・審理前勾留下にあるメラビシヴィリ前首相を訪問。同氏に対する支持を表明するとともに、昨年10月の議会選挙以降のグルジア国内の状況が「民主的と言えるかどうか疑わしい」として、現政権を批判。

▼セルゲエンコ労働・保健・社会保障大臣が訪米(30日～2日)

・下院議員および国立衛生研究所、国立がん研究所、食品医薬品局、各大学の代表団と会談。

▼欧州評議会拷問等防止委員会(CPT)がグルジアについての報告書を発表(31日)

・2012年11月の視察に基づく報告で、大規模な恩赦が行われたことを歓迎しつつ、刑務所の混雑を解消するには抜本的な措置が必要であると指摘。

・不満を申し立てた受刑者が罰せられないような仕組みをつくらねばならないと勧告。

▼露グルジア関係についてのメドヴェージェフ露首相の発言(4日)

・露国営英語TV放送「Russia Today」でのインタビュー。5年前のグルジアとの戦争について、サーカシヴィリ大統領を「戦争犯罪者」と呼んで非難する一方、グルジアの現政府は「より実際の姿勢をとっている」と評価した。

・「もしアブハジア、南オセチアがグルジアに戻ることに同意した暁には、ロシアはグルジアの領土一体性を認めるのか?」という質問に対し、「すべてはそこに暮らす人々の意思次第である。ただし、我々はロシアの国益を守る」と回答。

3. 内 政

▼グナヴァ前サメグレロ・ゼモスヴァネティ地方知事が

大統領の恩赦により釈放される(30日)

・「グ」氏は7月12日、内務省調査局長であったときにガソリンと公金を流用したとして4年の禁錮刑を受けていた。サーカシヴィリ大統領は流用は捏造だったと主張。
・「グ」氏は2012年11月中旬に武器・薬物の不法所持で逮捕された後、保釈。その際、警察が罪が捏造したと主張。12月、「グ」氏の逮捕に関わった内務省職員5名が解雇され、同件の捜査は停止。ナヌアシヴィリ人権保護官は「グ」氏の捜査・逮捕で警察による法律違反があったと述べた。11月末にガソリンと公金の流用の件で再逮捕。
・8月1日、「サ」大統領は「グ」氏を再びサメグレロ・ゼモスヴァネティ地方知事に任命。

▼国会でナヌアシヴィリ人権保護官が年次人権報告(30日)

・「ナ」人権保護官は「人権に関して多くの問題が残っているものの、2012年10月の議会選挙以降、多くの分野で状況は改善された」と評価。報告を受けて、国会は各省や地方自治体、検察庁への提言をまとめた決議を採択。
・ロボタ渓谷での武力衝突事件について政治家や内務省の関与しない調査委員会を設置することを要求。

▼2010年に撤去されたゴリのスターリン像がスターリン博物館へ(30日)

・2010年6月にゴリ中央広場から撤去されたスターリン像は、もともとゴリ市内のスターリン博物館に移されることが予定されていたが、これまで実現していなかった。
・再設置についてのゴリ住民の請願を受けたゴリ市議会が文化・遺跡保護省に設置の場所を諮り、文化・遺跡保護省は博物館の庭への設置を推奨。設置の可否および設置の時期は市の決定事項だとしている。

・30日、サーカシヴィリ大統領は決定が「野蛮で反国家的」であるとして、政府に計画の変更を求めた。

・2012年4月、前政権は博物館をソ連時代の弾圧に焦点を当てた「スターリニズム博物館」に変更する計画を発表していた。30日、ボケリア国家安全保障会議書記は政府に対して前政権の計画を実行するよう呼びかけた。

・2日、エストニアの議員が「スターリン像の再建はグルジア・エストニア関係に悪影響を及ぼす」と警告。

▼ベルギー紙「EUオブザーバー」が「新年までに辞任する」というイヴァニシヴィリ首相のインタビューを掲載(30日)

・記事によれば、「イ」首相は「新年までに首相を辞任する」と話した。首相は典型的な欧州型の社会を築き、グルジアが欧州とアジアを繋ぐドバイのようなビジネス・ハブになることを望んでいる。

・記事について記者から質問されたウスパシヴィリ国会議長は、連合「グルジアの夢」(GD)について、「向こう4年間は解散しない」と述べた。

▼GDが党員を処分(30日)

・7月20日にズグディディで行なわれた UNM の討論会場での暴力的な抗議行動に関わったとして、党員2名に対し書面で警告、1名を除名した。

▼国会が2014年末まで農業用地の用途の変更を禁じる法案を承認(31日)

・国会が第三読(最終)を承認。6月末に農業用地の外国人への売却を2014年末まで禁じる法案が国会で承認されたばかり。用途を変更して外国人に売却するのを防ぐことが主な狙い。

▼アハライア元国防大臣・前内務大臣に無罪判決(1日)

・2012年11月、国防大臣であった2011年に兵士を虐待するなどの権力濫用があったとして逮捕。5カ月に及ぶ裁判の末、トビリシ市裁判所は無罪の判決を下した。同件でもに起訴されていたカランダゼ前参謀総長ら7名も無罪とされた。

・「ア」元大臣は、内務大臣であった2012年8月に特殊部隊隊員を虐待したとされる別件でも起訴されている。
・判決についてツルキアニ法務大臣は「判決は司法が政府の影響から独立していることを示した」とコメント。

▼コバ・ダヴィタシヴィリ議員がGDを離脱し無所属に(2日)

・GDを離脱する議員ははじめて。「ダ」議員はこれまでの政策に関する意見の相違を理由に挙げ、直接的なきっかけとして「アハライア氏に対する無罪判決についてGDメンバーが『司法の独立が証明された』と述べていることが受け入れられない」と説明。大統領選への立候補の意思を表明した。

4. 経 済

▼6月の経済成長率(速報値)は前年比 -0.8%(31日)

・2013年上半期のGDP成長率(速報値)は前年比 +1.8%。
・消費者物価指数は前年比 100.2。工業製品の生産者物価指数は前年比 98.5。

・GDP成長率の低下が続いていることについて、サーカシヴィリ大統領は「経済の崩壊を防ぐために政府と協力する用意がある」とコメント。

▼中国人民銀行の代表団がグルジア国立銀行を訪問(1日)

・人民銀行はグルジア国立銀行と通貨スワップ協定を締結する用意があることを表明。

・9月に人民銀行総裁のグルジア訪問が予定されている。

▼2013年7月の月間インフレ率は -1.3%(2日)

・食料品・非アルコール飲料 -4.6%。医療費 +1.6%。
・前年同月比で -0.2%。